

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東京女子医科大学	整理番号	1-3-094
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	人間関係教育を包含するテュートリアル教育		
申請単位	学部単位		
申請担当者	溝口 秀昭		
<p>(取組の概要)</p> <p>本学は百年余に亘り、医学の知識・技能の修得の上に「至誠と愛」を実践する女性医師の育成を行ってきた。1990 年より画期的な医学教育改革を行い、1) 問題発見解決型テュートリアル教育(提示された事例の中から学生自身が問題点を発見し自学自習で解決する小人数教育)、2) 人間関係教育(体験の中から感性を磨き他者・患者と共感できる能力・態度を習得する教育)、3) 統合カリキュラム(人体の器官・機能系別の統合)を導入し確立した。我が国の医学教育のひとつのモデルとして本学はその普及に尽力してきた。今回の取組では、女性の特性を伸ばす教育、温かい心と問題解決能力を備えた生涯学習する女性医師の教育をさらに充実させることを目的とし、テュートリアルと人間関係教育を有機的に統合する。入学時から臨床実習まで、医学的問題のみならず、患者の心理的・行動科学的問題、社会的・経済的問題に取り組み、患者中心の医療を実践する医師の育成を目指す。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、東京女子医科大学の教育目的・教育方針である「至誠と愛」を実践する意志の育成を実現するために、テュートリアル(PBL)を1990年に全国に先駆けて導入し、全学的組織努力によって定着させています。この実績は、2001年に医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムがだされ、全国の医系・歯系大学でPBLをふくむ教育の標準化が進むなかで、全国的に多大な影響をあたえ、指導的役割も果たしました。申請の取組は、これまでの学習項目発見解決型テュートリアルに、患者のもつ問題を発見し、治療まで進むことを加えたテュートリアル第二世代を目指したものです。先進的な特色があり、他大学の医学教育の参考になります。一方、入学から卒業までの一貫教育のなかで、社会人としてのバランス感の涵養に重要なリベラルアーツの位置づけが不明でありますから、この点を明確にし、医学教育のみならず高等教育全体に資することを期待しています。</p>			